



アジアに友情の 世界に友情の 海よ広がれ

みどり
緑まぶしく、風さわやか。海原^{うなばら}はどこま
でも青い。韓国の南に浮かぶ済州島^{チェジュ}を、池
田名誉会長は「詩人が来るべき島」と呼ん
だ。写真は1999年（平成11年）5月の撮
影。交差する2隻の白い航跡^{こうせき}は、アジアの
大交流の歴史と未来を象徴するかのよう。
これが、3度目の韓国訪問だった。

初訪韓は90年（同2年）9月21日。25周
年の佳節^{せつ}を迎える。また9月は、日中国交
正常化提言^{ていげん}〈68年〉、ソ連初訪問〈74年〉の
月でもある。対立を和解へ、分断^{ぶんだん}を連帯へ
と転回^{てんかい}するために、人間と人間の「友情の
橋」を架けてきた名誉会長——その勇気と
先見^{せんけん}に学び、平和の志を継いでいきたい。



「新世紀の銅鑼（どら）を打ち鳴らしながら、ともに幸福の船出を！」——アジアの代表が集った代表者会議で、韓国の友を激励する池田名誉会長（1994年11月、九州池田講堂で）

永遠なる友好交流を支えるのは、
何より民衆と民衆を結ぶ
「心の絆」であろう。
民衆という「大海」の上にこそ、
政治・経済の「船」は
浮かび、進む。
民衆と民衆の心の絆は、
目には見えない。

しかし、見えないがゆえに強い。
誰もが、平和を望んでいる。
どんな人にも、
他者を慈しみ、
大切に
大切にする心が具わっている。
大事なことは、
誰の心にもある良心と勇気を

一人、また一人と呼び覚まし、
地域を、社会を、
そして人類全体を
包み込んでいくことでは
ないだろうか。

平和への直道である
対話を果たせるには、
信頼を築いていくことだ。
友情を結び、育んでいくことだ。
そのためには——
相手の話を「聞く」。
相手を「敬う」。
相手から「学ぶ」。

これが、
価値ある対話の鉄則である。

雨の一滴も、
川の水の一滴も、
大海の一滴も、
一滴には違いがない。
小さな世界の中の
友情であったとしても、
全世界の友情につながる。
「一人」の本当の友人を
つくることが、
「世界」の平和へと
通じている。